

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町 366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



『 デイケアのこれまでの取り組みと今後の展望 』

デイケア室 精神保健福祉士 内原 杏美

私がデイケアに入職した平成26年はデイケア、デイナイトケアの定員が70名から100名規模へ拡大された大きな改革のときでした。「デイナイトケアきた」を新たに立ち上げ、デイケアセンターが「デイナイトケアきた」「デイナイトケアみなみ」と「デイケア」の3か所に分かれて活動を開始しました。当時長期入院を経て退院されたばかりの10数名は「デイナイトケアきた」で1日の生活リズムをつくる所から始め、朝食を準備する練習、買い物をする練習、近隣を散策して体力づくりをしたり、少しずつ地域での生活を安心して送れるよう活動を通した支援を行いました。始めは慣れない環境で落ち着かない利用者もいましたが、次第にデイナイトケア、グループホームでの生活にも慣れていき、デイナイトケアに通所することを日課とされている方が増えてきました。「デイケア」では就労を目指す方、ステップアップを目標とする方を対象とした活動を発足し、SSTなども取り入れながら従来の活動に合わせて就労に繋げていく取り組みを数名の多職種スタッフで連携して行いました。

その後、新館建て替えに伴い「きた」「みなみ」で分かれて運営していたデイナイトケアは「デイナイトケアステラ」として1か所でまとまって活動を開始し、「デイケア」は従来の運営方法の「サクラ」、就労支援を目的とした「フラネ」へと分かれていきました。経過と共に、生活リズムの安定やコミュニケーションの場として利用したい方、ステップアップを目指したい方などそれぞれの利用目的が変化したことで様々な課題が浮き彫りとなり、個別支援の必要性が増えました。「デイナイトケア」では入浴の仕方や静養面、体力の保持、介護予防、転倒防止などが課題となり、利用者の希望や目標に沿った選択が広くできるよう施設面や活動内容の再検討が必要と感じ、令和2年から New デイ's の取り組みを開始しました。

New デイ's はデイケアの新規利用者窓口担当、救急急性期病棟担当精神保健福祉士、作業療法課作業療法士、医療相談室精神保健福祉士で構成されています。定期的に会議を行い地域の課題やデイケアへのニーズについて情報交換や共有、意見交換を行い、デイケア見学、体験参加のルート作り、デイケアのPR活動の仕組みを整えました。その結果、利用希望の依頼も増加し参加者も徐々に増えていきました。

今年の6月からは、従来の運営も続けつつ、柔軟なデイケアにするため New デイ's の活動内容も刷新しました。まずは見学から本参加に至るまでの流れを書式化し、見学から本利用までの待ち時間を短縮しました。デイケア見学を当日も受付し、利用者の希望への柔軟な対応も行っています。体験利用者や新規利用者に対し、各職種で連携しながら必要な支援を情報共有し、安心してデイケアを継続してもらえるような体制づくりも心がけています。

さらに支援の必要な利用者にはデイケアからデイナイトケアへの提案、利用日数や曜日の調整など随時見直しも行っています。本人の希望や生活に目を向けていくことで、利用者の年齢層も幅広くなり、より多くの方に利用してもらえるデイケアになりました。

今後の展望としては、高齢の利用者や個別ニーズの異なる利用者へ対し、身体機能の維持、向上、利用時間や参加の仕方など個別のニーズに特化した柔軟な対応が重要となると思います。これからも長く利用している方、新しく利用する方も過ごしやすいデイケアを目指していきたいと思っています。





『災害時の食事提供について』

管理栄養士 岡 浩実

比較的災害による被害が少ない香川県ですが、先日の熊本での地震や台風による被害、局地的な大雨による浸水など、自然災害はいつ発生するかわかりません。

当院では災害時に備え、食料品や備品を約3日分保管しています。現在の厨房はオール電化のため、電気が止まると機能しません。それを踏まえて今年の6月に備蓄について見直しを行い、すぐ食べられるもの、加熱しなくてもよいものを増やし、嚥下困難者用の食品を新たに追加しました。飲料水については市販されているペットボトルの水と5年保存の水を両方備蓄しています。消費期限前に計画的に使用し、入れ替えていく予定です。また夜間に災害が発生した場合を想定し、各病棟に水とゼリーを人数分置き、病棟勤務者で対応できるように変更しました。非常食は院内に分散して保管していますが、大半の食料は栄養管理棟2階の備蓄倉庫と、ローリングストックとして使用しているものは1階の倉庫、冷凍・冷蔵庫に保管しています。献立表は食品ごとの写真で組み合わせで表示しており、給食委託会社スタッフにも情報共有し栄養士が不在時にも対応をお願いしています。食事提供を円滑に進めるため、現在入院患者様の食

数管理は電子カルテと給食システムを連動させて行っています。停電時に誰がどの食種であるか確認できないという事態を想定し、一日の最後に食種別の一覧表を保管し、直近の食種がわかるようにしています。災害が発生した時、備蓄はあるのにどのようにすればいいのかわからないということがないように、給食委託会社と協力して研修を行っていく予定です。また食事をエレベーターや温冷配膳車が使用できない状況でどのようにして運ぶのか等、実際に動いてみて検討していかなければならない課題が多く残っています。

今後も多職種と連携し、入院患者様に安心安全な食事提供を行うため取り組んでいきます。ご協力をよろしくお願いいたします。



三船病院医師からのメッセージ...



『支える人を、支える』

常務理事 精神科医師 三船 禎子



認知症の患者さんを診療していると、ご本人だけでなく、ご家族が疲れ切った表情で受診されることがあります。夜眠れない、何度も同じことを尋ねる、外へ出ようとする、怒りっぽくなる、ときには暴言や暴力がみられる——。こうした状態への対応が続けば、支える家族が心身ともに消耗するのは当然のことです。これは認知症に限りません。さまざまな精神疾患でも、在宅での対応が難しくなり、ご家族が入院を希望して患者さんを連れて来られることがあります。入院が決まった瞬間、緊張がほどけ、ほっとした表情をされるご家族を何度も見てきました。

大学病院勤務時代、私は認知症患者さんの行動・心理症状（BPSD）と介護者との関係について研究し、ペアレントトレーニングについても学びました。対象は高齢者と子どもで異なりますが、支える人の心の余裕や接し方、周囲の環境が、本人の安心や行動の安定につながるという点には共通するものがあります。

だからこそ、家族だけで抱え込まず、周囲の理解や支援を得ることが大切です。支える人には、休息し、自分自身の人生を生きる時間も必要です。こうした休息を確保する「レスパイト」も大切な支援です。必要に応じて入院や福祉サービスを利用することも、本人を見放すことではありません。家族が休むことも、長く支えていくための大切なケアの一つです。患者さんもご家族も孤立せず、地域や社会全体で支えていく。その一端を精神科医療が担えればと思います。そして、ご家族が少し休養をとり、心に余裕が戻ったときには、また笑顔で患者さんに接していただけたらと思います。患者さんにとって、ご家族の笑顔は何より大きな支えになるからです。

※レスパイト：家族が一時的に介護や支援から離れ、休息するための支援。

※ペアレントトレーニング：子どもへの声かけや褒め方、指示の出し方などを学び、よりよい親子関係や行動の安定につなげる方法。

『くばらと一緒に進める就職までの道のり』



障害者就業・生活支援センターくばら

生活支援ワーカー 龍野 竹千代

障害者就業・生活支援センターくばら(以下、くばら)では、中讃圏域に居住し、一般企業で働きたい障害のある方の就労支援と生活支援を行なっています。最近、すぐの就職を希望されている方の相談や今応募したい求人があるので採用後に支援をしてほしい等の依頼が寄せられることがあります。改めて、くばらの利用から就職、就職後の流れを紹介したいと思います。

利用希望者からの電話相談があれば、面談を通して仕事に関する悩みや今後の就職活動に必要な情報を聞かせていただき、今後の方向性や支援内容について計画を立てていきます。中には、就職に向けて準備を整えるための施設への紹介等を行うこともあります。その後、職業能力等を確認していくためにこれまでの職業生活の振り返りや実際に作業を体験しての能力確認、香川障害者職業センターでの職業評価を受けたりして、本人の適性を把握していきます。こういったアセスメントの結果を参考にしながら、企業で数日間の職場体験を実施します。障害特性や希望する配慮事項を改めて認識したう

えでハローワーク等と連携し求人情報を確認しながら、企業への職場見学、職場実習を実施します。

本人の適性や希望、企業側の希望にマッチングすれば、就職につながります。就職後は、定期的に職場訪問を行い、職場の方や本人から現状を伺い、困り事や気になる点はないか確認を行いながら就労が継続できるように支援をしていきます。3～6ヶ月程度の期間をかけて、本人理解及び信頼関係の構築を行い、適した職場でより長く継続勤務が出来るように支援を行うため、すぐの就職を希望されている方や在職中の方への支援は難しくなります。それを理解していただいたうえで、単独での就職活動に不安を感じ、くばらと共に就職に向けて取り組んでみたいと思う方はくばらへ相談していただけたらと思います。



【ワークライフバランスについて】



事務長 北村 直幹

「働き方改革」が叫ばれるようになり久しいですが、昨今特に求職者の企業選択の要素に「ワークライフバランス」を掲げているということが重要視されています。

労働人口の減少から定年延長や再雇用制度の活用、非正規労働者の増加、子育てと家庭の両立ができる働き方等々企業は様々な手を打って労働者の確保に努めています。当院もひと昔前と比べ前記のような職員がかなり増えたように思います。どのような働き方であれ全ての職員に家庭があり、その生活の一部に仕事があります。自身が置かれている環境の中でこういった条件で仕事ができるのか、どれくらいの給与が得られれば生活できるのか、皆様々な考えのもと今の働き方を選択していると思います。患者様により良い医療サービスを提供するためには多くの人材が必要

です。管理職の立場から言わせていただくと病院経営に人材の確保は非常に重要なファクターだと思っています。そして確保した人材がより良い職場環境で働き、心と体が健全な状態で仕事に臨むことでより良いパフォーマンスの発揮に繋がると信じています。それらを実現するために「ワークライフバランス」は重要なファクターだと考えています。

三船病院は経営理念に「三愛の精神」を掲げています。病院を利用していただくすべての方々に愛情をもって接するためにも「ワークライフバランス」を調べ、職員の皆さんには素晴らしいパフォーマンスを発揮してもらいたいと思います。



三愛会 トピックス



プログラム
 17:30 バザー開始
 17:45 院長・実演挨拶
 17:55 ステージショー
 (太鼓・響屋)
 18:15 みんなで盆踊り
 18:25 ステージショー
 (レオマワールドキャラクターショー)
 18:45 ステージショー
 (上さこい踊り・さめき舞人)
 19:05 豪華景品 大抽選会

屋台・縁日
 たこ焼き・カキ氷・焼きそば
 おでん・フランクフルト・大判焼き
 アイスクリン・ポップコーン
 ヨーヨー・スーパーボールすくい

子どもコーナー (無料)
 こどもくじ
 手持ち花火コーナー
 ※小学生以下対象



《編集後記》

今年の夏も猛暑が続いておりましたが、8月22日(土)当院の恒例行事である三船夏祭りを開催いたしました。患者様やご家族、地域の方々など今年も大勢の方にご参加いただき、おかげさまで会場いっぱいになるほどの大盛況となりました。

ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

(三船病院医療相談室MHSW)